

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
教育課程概説 An Introduction to Curriculum		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(保育士養成課程・教職課程必修 (幼稚園教諭二種))	こどもフィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
教職関連科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
教職関連科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
細矢智寛	授業中に指示し ます	授業中に指示し ます		授業中に指示し ます
授業の概要				
教育（保育）の目的と教育（保育）課程の関係を理解する。教育（保育）課程の編成方法と評価を理解する。カリキュラム経営について理解する。				
授業の目標				
①教育課程の編成方法や評価方法について述べるができるようにする。 ②保育課程の編成方法や評価方法について述べるができるようにする。 ③カリキュラム経営について要点を述べるができるようにする。				
授業の方法				
黒板やプリントを使っての説明を行う。実践事例に触れる。また、教育に関するテーマについて討論したり、基本的問題を解いて発表することを行う。講義者が、それらの学生の見解を尊重しながら、幅広い観点からそれを補い、深める。学生が自分でカリキュラムを作り、評価する活動を取り入れる。				
学習の成果（学習成果）				
(1) 教育課程・保育課程のつくり方等について述べ、目的に応じて使い分けることができる。 (2) 教育・保育課程を立案し、評価し、カリキュラム経営の諸側面を区別できる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス			
第2回目	教育課程とは、保育課程とは何か			
第3回目	教育課程の諸側面(隠れたカリキュラム)			
第4回目	教育課程・保育課程の編成における留意点			
第5回目	教育課程・保育課程の編成の手順			
第6回目	教育課程・保育課程から指導計画へ、レポート課題の説明（対象児の年間指導計画の立案）			

第7回目	幼稚園における教育課程と指導計画の実際：基本
第8回目	幼稚園における教育課程と指導計画の実際：発展
第9回目	保育所における保育課程と保育計画の実際：基本
第10回目	保育所における保育課程と保育計画の実際：発展
第11回目	乳児（0、1歳児）の特徴と指導計画
第12回目	乳児（2歳児）、幼児（3歳児）の特徴と指導計画
第13回目	幼児（4、5歳児）の特徴と指導計画
第14回目	指導計画と教育課程・保育課程の評価（レポート課題の提出日）
第15回目	カリキュラム・マネジメントの要点

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	最高水準としては、講義者の話を集中して聞き、質問に的確に答えられること、与えられたテーマについて仲間の意見を聞き、自分の考えを述べられるなどである。
レポート	30%	レポートを提出する。評価基準については講義中に述べる。
調査報告書		
小テスト		
試験	40%	基本的事項について身についたかどうかをテストで確認する
発表内容（態度含む）		
その他		

教科書と参考図書

教科書：岩崎淳子他著、『教育・保育課程論―書いて学べる指導計画―』、萌文書林、1,900円+税。参考書は講義内で指示する。

履修上の留意点・ルール

休まないこと。真剣な態度で講義に臨むこと。私語をしない。積極的に質問すること。

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
教育課程概説 An Introduction to Curriculum		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(教職課程必修(中学校教諭二種(外国語)、栄養教諭))	英語・栄養の教職課程履修者のみ受講可
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
教職関連科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
教職関連科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
細矢智寛	授業中に指示します	授業中に指示します		授業中に指示します
授業の概要				
教育の目的と教育課程の関係を理解する。教育課程の意義を理解する。教育課程の類型を理解し、その編成方法と評価を理解する。我が国の教育の歩みと教育課程の変遷について理解し、外国の教育課程改革の動向を理解する。カリキュラム経営について理解する。カリキュラムを作ることを体験する。				
授業の目標				
①教育課程の類型や編成方法や評価方法について述べるができるようにする。 ②日本の教育課程の編成過程や歴史や諸外国の教育課程改革の動向について述べるができるようにする。 ③カリキュラム経営について要点を述べるができるようにする。 ④日本の教育課程の課題について述べるができるようにする。				
授業の方法				
黒板やプリントを使っての説明を行う。実践事例に触れる。また、教育に関するテーマについて討論したり、基本的問題を解いて発表することを行う。講義者が、それらの学生の見解を尊重しながら、幅広い観点からそれを補い、深める。学生が自分でカリキュラムを作り、評価する活動を取り入れる。				
学習の成果(学習成果)				
(1) 教育課程の類型や編成方法等について述べ、目的に応じて使い分けることができる。 (2) カリキュラムの歴史や意義、今日的課題について述べるができる。 (3) カリキュラムを作り、それについて評価ができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス			
第2回目	教育課程とは何か			
第3回目	教育課程の意義、教育課程の諸側面(隠れたカリキュラム)、レポート課題1の説明(年間指導計画の作成)			
第4回目	教育課程の構成要件(文化・編成主体等)			
第5回目	教育課程の構成要件(時間配分・こども集団の編成等)			
第6回目	教育課程編成論(タイラーとブルーム等)			

第7回目	教育課程編成の基本原則
第8回目	真正の評価とパフォーマンス評価、レポート課題2の説明（ルーブリックによる評価について）
第9回目	教育課程の経営と評価
第10回目	日本の教育課程改革の歴史、戦前
第11回目	日本の教育課程改革の歴史、戦後の民主化
第12回目	日本の教育課程改革の歴史、系統性、人間性の重視
第13回目	日本の教育課程改革の歴史、生きる力、活用能力の重視
第14回目	諸外国の教育課程改革の動向（レポート提出日）
第15回目	学生による課題の発表とそれへの講評

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	最高水準としては、講義者の話を集中して聞き、質問に的確に答えられること、与えられたテーマについて仲間の意見を聞き、自分の考えを述べられるなどである。
レポート	80%	2つのレポートを（40点満点のものを2つ）提出する。評価基準については講義中に述べる。
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）		
その他		

教科書と参考図書

教科書：田中耕治他著、『新しい時代の教育課程』、有斐閣、1,900円+税、及び自作プリント等を使う。参考書は講義内で指示する。

履修上の留意点・ルール

休まないこと。真剣な態度で講義に臨むこと。私語をしない。積極的に質問すること。